

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年4月5日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4679100166
法人名	有限会社 ソフィア・インター・ナショナル
事業所名	グループホーム 港ヶ丘
所在地	鹿児島県大島郡徳之島町亀徳2239番地 (電話) 0997 - 81 - 1215
自己評価作成日	平成30年3月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/">http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成30年3月25日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日の出とともに海を眺めながら手を合わせ、健康と幸せを祈りながら一日が始まります。  
毎朝、港ヶ丘理念と介護の心得を唱和し職員一人ひとりが入居者の思いを大切に寄り添いながら要望に応えられるように支援しています。  
職員も支援の仕方を振り返りながら、お互い色々な意見を出し合い工夫をし明るく笑いの絶えないホームです。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所を訪問してボランティアの方が三味線を持って島唄を歌ったり、近隣住民が野菜や果物の差し入れや花園に花を植えてくださったり、事業所として行事に地域住民を招待する等、地域と交流を行っている。
- ・運営推進会議で、地域住民と交流を図るため、事業所でカフェの開催の提案が出され、協力体制ができている。
- ・食事の支援で、好みの食べたい物を聞き、刺身やひな祭りにノンアルコールを用意し喜ばれたり、弁当を持って公園で食べるなど、家族が回転寿司屋に一緒に行ったりして、食事を楽しむ支援を行っている。
- ・利用者はリビングで過ごす時間が多く、職員と一緒に作品作りやぬり絵・パズル・折り紙・歌遊びなどを行い、くつろいでいる。
- ・職員は、出勤時にうがい・手洗いを徹底して、感染症対策で外部からウイルスを持ち込まないように努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時、理念の唱和と介護の心得を唱和し日々の支援に反映できるよう努めている。	朝の申し送り時に理念と介護の心得を唱和している。自由に過ごされるように笑顔で接している。管理者と職員は理念を共有し実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	スーパーへの買い物や入居者の地元へのドライブに出掛けたり地元の方に遊びに来てもらったりしながら交流を図っている。 (特定の方だけです)	買い物やドライブ・近所の方からの差し入れ・事業所行事の敬老会・母の日・ひな祭りなど、家族や近隣の方に参加を呼びかけている。学生の職場体験や定期的に三味線のボランティアの訪問など、地域の一員として交流を行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	入所申し込みに来られた方々から困りごと等の相談がある時には話を聞いて症状への支援の方法など少しでも参考になるよう伝えている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に一回会議を開催し、入居者の近況、サービスの取り組み、支援の方法等報告をし、話し合い意見やアドバイスをサービス向上に活かしている</p>	<p>定期的に運営推進会議を開催している。入居者の状況などを報告している。近隣の住民との交流を図るためのカフェの提案があり検討しサービス向上に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>町担当者に運営推進会議に出席いただきホームの取り組み内容入居者の実情を報告、把握してもらい又月初めに役場に出向き入居者報告を行っている</p>	<p>毎月、入居者や事業所の実情などを報告している。相談事なども役場に出向いている。管理者は認知症サポーターの講師として、行政と協力体制ができている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>全職員がマニュアルを参考に拘束内容を理解し入居者の状態を把握しながら徘徊の見守りや付き添うことで歩行時の転倒防止に努めている。外部からの侵入防止の為夜間のみすべての出入り口の施錠と家族同意のもと入居者の状態により転落防止の為のベッド柵をしている</p>	<p>身体拘束に関する研修会をマニュアルを基に行っている。転倒防止の為のベット柵使用の事などは家族に説明し了解を貰っている。帰宅願望のある利用者には一緒に散歩するなど身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠は夜間のみ行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>マニュアルを参考に職員会議で勉強会を開いたり困難な場面に遭遇した際に職員同士、困難事例の解決策を話し合い職員が一人で抱え込まないように管理者は配慮している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>権利擁護や成年後見制度について学ぶ機会はないが入居者の尊厳を大切に尊重する気持ちを持ちながら支援している。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時は不安な点や疑問点を尋ねケアの方針や取り組みについて説明し理解・納得を得ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>入居者のホームでの生活状況を記録した日誌を毎月、家族に送り、要望等があれば運営に反映させるようにしている。意見箱も設置している。</p>	<p>毎月、生活状況の記録の日誌を家族に報告している。家族も状況が把握できているので家族の面会時に要望などを聞いている。利用者の入浴拒否や食事拒否なども家族の面会時に一緒に入浴したり、部屋で食事をするなど、家族の要望を運営に反映させている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	朝の申し送り時や職員会議の際に職員の意見を聞いたり、個別にも意見や思いを聞く機会を設け運営に反映させている。	職員会を毎月行って、意見を聞いている。ケアに関する事やポータブルトイレの移乗の仕方などを検討したり、勤務の要望や行事の担当の事など、職員の意見を運営に反映している。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者は職員の勤務状況を把握し勤務時間内に業務を終え帰れるように目配せ、声掛けを行っている。やりがいや向上心を持てるよう職場の雰囲気作りにも気を配っている。		
13		○職員を育てる取り組み  代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	島内の研修にはできる限り参加できるようにシフト調整したりマニュアルを参考に職員会議の際勉強会を開きレポート提出を行い各自のスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上  代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島内のグループホームの職員と交流を持ち、情報交換したり知りえた有効な情報をサービスに活かすようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学に来てもらい皆さんとお茶をしながら会話をしたり自宅訪問し情報収集を行い本人の要望を聞き安心して入居してもらえるよう関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にホームの様子を見学してもらったり自宅訪問し情報収集を行い家族の思いや要望を聞き安心して入居してもらえるよう関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に情報収集を行い本人、家族の思いや要望を聞き支援の提供、説明等を行っている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに教え教えられ、励まし支え合いながら共に暮らすという意識を持ちながら関係を築いている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、ホームでの生活の様子日誌を家族に送り様子を知らせ ホームと家族の関係、面会や電話、外出等で、入居者本人と家族の関係を築いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一部の入居者ではあるが友人や家族に自由に面会に来てもらったり、地元へドライブに行ったり馴染みの場所や関係が途切れないように支援している	家族や友人が面会に来てくれたり、馴染みの美容室に行ったり、墓参り・地元へのドライブで、近所の方と会話を楽しむなど、正月には外泊や家族との外出など、馴染みの場所や関係が途切れないように支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性や特性を生かせる行事やレクの工夫をしたり日々、入居者同士が楽しく関わり合えるよう支援している		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族と会った際に近況を尋ねたりねぎらいの言葉をかけたり、施設にも遊びに来てくれている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりとのコミュニケーションや関わりを持ち日々の様子、会話、仕草、表情などからどうしてほしいのか感じ取り困難な場合には職員全員で検討会を開き本人の意向に沿うようにしている。	言葉で言えないことやトイレの訴えなどを表情や仕草などから把握できた事は、個別日誌に記録し職員で共有している。把握の困難な利用者は家族に聞く事もある。コミュニケーションを図り本人の意向に添えるよう本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、家族、サービス事業所からの情報提供を把握し、その人を取り巻く環境や介護ないように気づくことでより良いケアに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り時、一人ひとりの状況や状態を出勤の職員同士で共有し日々の現状を把握して本人らしさを発揮できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の要望や思いを聞きながら職員を交え話し合い、本人の意向に沿った介護計画を作成するようにしている	本人・家族・担当職員と一緒に要望や思いを聞きチームで検討し作成している。モニタリングは3ヶ月に1回行っている。利用者個々に担当者を決め職員会議を通して、スタッフ全員で情報を共有している。定期的なモニタリングを行い、介護計画へ反映している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>朝夕の申し送りで日々の様子やケア内容の介護日誌を共有し月1回ミーティングで実践などの見直しを行っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>その状況に応じ外出の機会を増したり時々買い物などを楽しむ支援に努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域のボランティアや近隣の方たちを受け入れ行事や会話、会食を通し日々の活力が持てるように支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>月1回の訪問診療、定期的な訪問看護、異変があれば家族への報告、納得のうえで病院受診ができるようにしている。</p>	<p>本人・家族の希望するかかりつけ医を受診している。月1回の訪問診療と月2回の訪問看護を利用している。歯科受診や他科受診の場合は家族で対応することもあり適切な医療が受けられるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日吊の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の状態の変化、職員で共有し訪問看護師に相談することで適切なアドバイスをもらい受診や投薬などの支援を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際には職員が交代で面会に行き看護師に状態を聞き早期退院ができるように職員で情報共有し又再発の予防に心がけている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化終末期対応については本人、家族に説明し了承を得ている。職員も終末期看取り支援について訪問看護師より講習を受け家族の要望に応えられるように備えている	入居時に重度化や終末期に向けての説明を行っている、段階的に家族と医療機関と話し合っている。家族の協力と医療機関との連携により、終末期ケアのマニュアルを作り家族の要望に応えられるようチームとしての支援ができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防士より救命訓練の講習を受け急変時の事故発生時の対応が行えるように備えている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災や水害などの対応がおこなえるように全職員が近隣の方にも呼びかけ避難訓練を行っている</p>	<p>年2回火災・水害避難訓練を夜間想定で行っている。町全体の避難訓練に参加している。夜間の協力員や民生委員の参加もある。備蓄は飲料水を準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>一人ひとりの人格の尊重はもちろんのこと、プライバシーには特に注意を払い言葉かけや対応をしている</p>	<p>職員会で研修を実施している。入居者への声かけ・排泄時誘導の仕方・トイレ使用時のカーテンを閉める・入浴時の会話など、プライバシーを損ねないような言葉かけに気を付けるようにしている。気づいたときは、職員間でお互いに注意し合っている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>入居者の言葉だけでなく表情や仕草にも気配りし、要望や思いを受け止められるように支援している</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりのその日の体調や要望に沿って過ごして頂けるように支援している</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>整容、入浴時、外出の際、気温などに合わせ衣服の選択をし定期的に散髪で身だしなみを整えている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>楽しく食事ができるように味付けや季節感に工夫し職員と一緒に食事ができるようにしている</p>	<p>野菜の下拵えや豆の皮むき・食器洗い・お盆拭き・台拭きなど、職員と一緒にやっている。食べたい物を聞く事もある。刺身が食べたい、ビールが飲みたいなどもあり、ひな祭りにノンアルコールを準備し喜ばれた。近くの公園にお弁当を持参し食べたり、園庭で海を眺めながらお茶を楽しむなど、食事を楽しむ支援を行っている。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養バランスを考え食事記録を確認し偏らないように心がけている。又ひとりひとりの水分、食事摂取量の記録も行っている</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>食後は一人ひとりに声掛け歯磨き誘導をし義歯の仕上げ磨きは職員が行う。訪問歯科との連携もとれており不具合があれば診療していただいている</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排泄記録をつけ排泄の感覚を把握しながら夜間Pトイレやオムツ使用の方も日中はトイレ誘導し自立に向けた支援をしている</p>	<p>個々の排泄パターンでトイレ誘導を行っている。オムツ使用の利用者も日中はトイレ誘導を行いリハビリパンツから布パンツに改善する等、排泄の自立に向けた支援ができています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘で不穏にならないように水分補給を心がけ職員と共に体操や散歩等、状態に応じた対応に取り組んでいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	一人ひとりの体調や要望を聞きながら週3回、入浴が楽しめるように支援している	週3回は入浴ができるよう個々の体調や要望などを聞き支援している。2人で入浴したいとか毎日入浴希望・足浴・シャワー浴・歌を楽しみながら入浴する等、個々に応じた入浴支援をしている。拒否される利用者も家族からの要望で面会時に入浴できるように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調が悪い時には休息を促したり一人ひとりの異なる睡眠時間に応じ安心して眠れるように支援している。眠れない時には夜通し、職員が付き添っている		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人ひとりの薬の内容を把握し症状に変化があれば訪問看護師、医師のアドバイスを頂きながら支援に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>誕生日会や季節行事等にボランティアの方に協力頂いたり、家事手伝いなど一人ひとりの能力に合った役割を持ってもらったりドライブや散歩で気分転換の支援をしている</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>入居者の体調を把握しドライブや散歩、買い物支援を行っている。家族の方にも外出の支援を協力いただいている</p>	<p>天気の良い日は園庭に出て朝日を拝んだり・花の水やり・買い物・散歩などを行っている。週に2～3回はドライブにでかけている。家族と一緒に外出する利用者もいる。日常的に外出支援を行っている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お小遣いを預かり職員が病院の支払いや日用品の購入支援を行っている(一部の方は買い物同行可)</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>島外の家族との電話、帰宅願望のある方の電話のやりとり支援を行っている。ホームから写真を送って近況報告をしている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの壁絵や折り紙制作したものを飾り季節感を感じたり窓から海を眺めたり心地よく風を感じたりしている	事業所の廊下には椅子が置かれ利用者はくつろいでいる。リビングには貼り絵や塗り絵・季節の飾り物・折り紙で作ったひな人形が壁に飾られている。行事ごとの写真も置いてある。換気や室温調整も整っており、居心地よく過ごせる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下等に長椅子などを置き日光浴をしたり、会話をしながらくつろいだり壁に写真を貼り入居者同士の会話がはずむような工夫をしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具などを持ち込み本人の要望を聞きながら配置を決め写真を貼ったりお位牌を置き安心安全で快適に過ごせるよう工夫している	自宅から使い慣れたタンス・テレビ・ラジオ・洋服かけ・仏壇等を持ってきている。壁には家族の写真や遺影などを飾り、本人が居心地よく生活できるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	一人ひとりの残存能力を引き出せる家事手伝いの役割やレクリエーションに参加してもらい安全に自立に向けた生活を送れるように工夫している		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない